

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コロゾン横浜コットンハーバー		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 8日		2024年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	2024年 10月 15日		2024年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	(回答数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	レッスンメニューの豊富さ	繰り返し行う必要のある運動メニュー以外は年1回の実施とし、お子様が飽きないように多くのメニューストックを用意できている。また1つメニューに対して進行方法を数パターン準備しておくことで、よりお子様に合わせたレッスン実施が可能となっている。	過去実施したことのあるメニューについても必ずミーティングを行い、さらなる改良が可能かどうかスタッフ全員で話し合っていく。
2	スタッフの対応力の高さ	事前に想定できる範囲のイレギュラーは予め対応方法がある程度定めており、それ以外の問題発生時もスタッフ間の連携をもって冷静に対処可能な体制を整えている。	お子様の小さな変化やそれに伴う様々な可能性を見落とさないように各スタッフの視点を大切に共有していき、スタッフ一人ひとりの視野の拡大を図っていく。
3	お子様と保護者様の過ごしやすい環境整備	レッスンを行うフロアはお子様の集中力を損ねないように、必要最低限の物の配置、刺激の少なめの空間を心がけている。また見学ルームは複数のフリードリンクで一息つきながらガラス越しにお子様の様子が常に見えるようにしている。	過ごしやすさだけでなく、衛生面にも細心の注意を払っていき、清掃や備品のアルコール消毒を密に行いながら清潔な状態を維持していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「運動の技能」の向上	現場スタッフが教員免許や保育士資格所有者で構成されているためお子様の対応分野には長けている一方、一般的な運動教室のような「より高いレベルの技」を教えることが難しいと感じることがある。	療育の知識はいま以上に、また運動の向上を図るためにも、定期的にミーティングを行っていきながら、向上を図っていく。
2	個別対応の時間が少ない	レッスンは「スモールグループ」という形をとっているため、個別で、お子様に合わせて進める時間は少ないと感じる。	スモールグループだからこそ、お子様の成長につながることももちろんあるが、個別対応が必要な際のレッスン中のオペレーションの確認と、改善をする機会を積極的に設けていき、お子様にあったより良い対応方法を模索していく。
3			